通園課自己評価シート

令和３年度

職員による自己評価

Ａ業務改善

・定例会議で業務の進捗状況を確認する仕組みになっているが、さらに業務改善に向けた課題を共有していく必要がある。

Ｂ適切な支援の提供

・クラス職員間で十分に支援計画が検討され、上司からのアドバイスも適切にあり、組織として方針を共有して取り組んでいる。

Ｃ関係機関との連携

・担任が子どもの所属園に訪問するシステムを作り、地域の関係機関との連携を充実させることができている。

Ｄ保護者への説明責任等

・療育中に相談対応が難しい場合は、電話対応を行うなど適切なタイミングで保護者と話し合える工夫をしている。

Ｅ非常時等対応

・重心児の避難誘導、広域避難所への避難方法などの見直しをすすめたが、定例の避難訓練をさらに実践的な内容にしていくことが必要。

保護者による評価

Ａ適切な支援の提供

・子どもの課題を明確にして、プログラムも工夫しながら支援が行われている。

・季節に合わせた行事も組み込まれ、子どもにとって様々な経験ができている。

Ｂ保護者への説明等

・健康面を含めて、子どもの成長・変化を職員と適宜確認することができている。

・コロナ対策でZOOMでの勉強会・保護者交流会が実施されたが、保護者同士で交流する機会・時間がもう少しあると良い。

Ｃ非常時等対応

・感染症対策について、適宜情報提供されてわかりやすかった。

・定期的に避難訓練が実施されている印象がある。

Ｄ満足度

・概ね子ども達は通園を楽しみにし、センターでしかできない活動を楽しんでいる。

・職員から丁寧な説明や相談対応ができており、保護者も安心して利用できている。

通園課内での分析

【共通点】

・個別支援計画は、子どもの現状と課題が明確になる内容で作成されている。

・保護者への療育方針の説明が丁寧にされており、面談時間や電話相談の方法を工夫して、タイムリーに話し合いをすることができている。

・感染症拡大防止の観点から保護者同士の交流会、情報交換を行う機会が少なくなっている事に対し取組が必要。

【相違点】

・保護者から避難訓練が定期的に実施され安心感があるとの意見がある一方で、職員からは、より実践的な訓練内容にしていく必要もあるという意見がある。

・様々な専門職がいる療育センターの強みを活かして、専門職からのアドバイスが増えるといいという意見がある。

分析・検討してみて…

通園課の強み

・適切な目標設定と個別化された支援

クラス職員・児童発達支援管理責任者・医療職・管理職が様々な視点から評価を行い、適切な支援計画の基にチームで支援が行われている。

・保護者との密な連携

日常的な情報交換、子育てについての相談しやすい関係が構築され、コミュニケーションが活発に行われている。

・関係機関との連携

担任が園児の所属園に訪問したり、就学する小学校との引継ぎを丁寧に行うなど機関連携の充実に努めている。

通園課の改善点

・保護者プログラムのさらなる充実

ZOOM での開催など新たな方法で勉強会・情報交換会を行ったが、実施回数の確保、参加しやすい仕組み作りをさらにすすめていく。

・個別化された支援の充実

個別支援計画の目標を達成していくため、集団療育の中で一人ひとりへの配慮と関わりを密にして、より個別化したプログラムを実践している。

・通園クラスの柔軟な運用

運動障害児の増加を踏まえ、利用者ニーズに対応していくためのクラス編成を検討し、年度毎に柔軟に対応できるように受け入れ体制を整備していく。

～自己評価を行っての通園課としての感想など～

利用者の皆様から大変貴重なご意見をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

柔軟な通園課療育システムの構築、個々の職員のさらなる療育知識・技術の向上など、通園課としての課題もありますが、職員の対応について、利用者の皆様を大切にする姿勢を評価していただきましたことは、大変うれしく、職員もその評価を励みに療育活動に取り組んでおります。

今後も一人ひとりの子ども・保護者の皆様を大切にし、地域の関係機関との連携も充実させ、利用者の皆様が家庭・地域で安心して生活していけるような通園療育を目指していきます。

事業所名　　川崎西部地域療育センター

担当者　　通園課園長　長門展弘